

生活福祉論

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目である（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷および社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解した上で、社会福祉の制度や実施体系等について理解する。また、社会福祉における相談援助について理解し、さらに、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。社会福祉の動向と課題についても理解する。

到達目標

保育者として求められる専門的知識・技術を修得し、また「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるために以下のことについて理解する。

- 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷および社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
- 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 社会福祉における相談援助について理解する。
- 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
- 社会福祉の動向と課題について理解する。

各回の内容

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について
2. 子ども家庭支援と社会福祉について
3. 社会福祉の制度と法体系について
4. 社会福祉行財政と実施機関について
5. 社会福祉施設について
6. 社会福祉の専門職について
7. 社会保障及び関連制度の概要について
8. 社会福祉における相談援助（1）相談援助の理論について
9. 社会福祉における相談援助（2）相談援助の意義と機能について
10. 社会福祉における相談援助（3）相談援助の対象と過程について
11. 社会福祉における相談援助（4）相談援助の方法と技術について
12. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（1）情報提供と第三者評価について
13. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（2）利用者の権利擁護と苦情解決について
14. 社会福祉の動向と課題（1）少子高齢化社会における子育て支援について（2）共生社会の実現と障害者施策について
15. 社会福祉の動向と課題（3）在宅福祉・地域福祉の推進について（4）諸外国の動向について
16. 試験

生活福祉論

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義を中心とするが、理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討なども行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行う。

評価方法

授業の振り返り30%、試験70%

試験の解答は掲示する。

教科書

井村圭壯・今井慶宗編著『社会福祉の拡大と形成』勁草書房、2019

参考文献

その都度紹介する。

社会的養護内容

科目のねらい

本科目は、こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、また、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）ための科目である。また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目である（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

施設養護および家庭養護の実際について理解し、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。また、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。さらに、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

到達目標

こどもや家庭および地域について理解し保育実践から学ぶ姿勢を身につけ、また、保育者として協働する必要性を理解し、また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるために以下のことについて理解する。

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。

施設養護及び家庭養護の実際について理解する。

社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。

社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。

社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

各回の内容

1. 社会的養護の内容について
 - (1) 社会的養護における子どもの理解、(2) 日常生活支援、(3) 治療的支援、(4) 自立支援
2. 社会的養護の実際について
 - (1) 施設養護の生活特性及び実際
3. 社会的養護の実際について
 - (2) 家庭養護の生活特性及び実際
4. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価について
 - (1) アセスメントと個別支援計画の作成、(2) 記録及び自己評価
5. 社会的養護に関わる専門的技術について
 - (1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
6. 社会的養護に関わる専門的技術について
 - (2) 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
7. 今後の課題と展望(1) 社会的養護における家庭支援
8. 今後の課題と展望(2) 社会的養護の課題と展望

社会的養護内容

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討などを行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

評価方法

レポート50%

授業の振り返り(リアクションペーパー)50%

教科書

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

その都度紹介する。

社会的養護

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目である（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解したうえで、子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本原則や関係する専門職の倫理や責務について理解する。また、社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系について理解する。さらに、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。

到達目標

保育者として求められる専門的知識・技術を修得し、また「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるために以下のことについて理解する。

- 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
- 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
- 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
- 社会的養護の現状と課題について理解する。

各回の内容

1. 社会的養護の理念と概念について
2. 社会的養護の歴史の変遷について
3. 子どもの人権擁護と社会的養護について
4. 社会的養護の基本原則について
5. 社会的養護における専門職の倫理と責務について
6. 社会的養護の制度と法体系について
7. 社会的養護の仕組みと実施体系について
8. 社会的養護の対象について
9. 家庭養護と施設養護について
10. 家庭養護の実際について
11. 施設養護の実際について
12. 社会的養護に関わる専門職について
13. 社会的養護に関する社会的状況について
社会的養護に関わる児童福祉施設等の運営管理について
14. 被措置児童等の虐待防止について
15. 社会的養護と地域福祉について
社会的養護の今後の課題について
16. 試験

社会的養護

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

講義を中心とするが、理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討なども行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行う。

評価方法

授業の振り返り30%、試験70%

試験の解答は掲示する。

教科書

井村圭壯・今井慶宗 編著「現代の保育と社会的養護」勁草書房（2020年）

保育福祉小六法編集委員会「保育福祉小六法」みらい（2020年）

参考文献

その都度紹介する。

子ども家庭支援の心理学

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、保育者として多様な人々と協働する必要性を理解できるように（DP4）「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになる（DP5）専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	15
単位数	2

授業の概要

心理学の基礎的な知識をもとに、子どもを取り巻く家庭や社会を理解し支援のあり方を考える

到達目標

- 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を過程を理解する。
- 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
- 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。
 - (2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程を理解する。
 - 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
 - 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
 - 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。
 - (3) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。
 - (4) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
 - (5) 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
 - (6) 子どもの精神保健とその課題について理解する。

子ども家庭支援の心理学

各回の内容

1. 生涯発達について

2. 乳幼児期から学童期までの発達

3. 学童期後期から青年期までの発達

4. 成人期・老年期までの発達

5. 家族・家庭の理解 ~親にとって子どもとは~

6. 家族・家庭の意義と機能

7. 親子関係・家族関係の理解

8. 子育ての経験と親としての育ち

9. 子育て家庭に関する現状と課題（地域子育て支援者による特別講演）

10. 子育てを取り巻く社会的状況

11. ライフコースとライフワークバランス

12. 多様な家庭とその理解（ドキュメンタリー映画上映）

13. 特別な配慮を要する家庭（こどもCAPふくしまワークショップ）

14. 子どもの精神保健とその課題 子どもの生活・生育環境とその影響

15. 子どもの心の健康に関わる問題

子ども家庭支援の心理学

準備学習（予習・復習等）

1. 次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書や事例をもとに学習し、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（実務家をゲスト講師として招聘予定）
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、子ども、保護者、家族支援に関する理解を深める一助とする。
- ・視覚教材も活用し（ドキュメンタリー映画等）学習する。

評価方法

毎時間ごとの振りかえり評価 84点（14回×6点） 最終レポート16点
レポート、振り返りは確認後次回講義時に返却する。

教科書

手に取るように発達心理学がわかる本（小野寺敦子 かんき出版）
保育の心理学 実践につながる。子どもの発達理解（井戸ゆかり編著 萌文書林）

参考文献

講義時に紹介する

保育の心理学

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）「子どもの最善の利益」を考え続けることができる（DP5）ようになるための専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	15
単位数	2

授業の概要

人間の発達的基本的事項や各発達段階における子どもの特徴について心理学的な知見から学習する。学習した内容を基に保育場面における子ども理解を深める。

到達目標

- (1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程を理解できる。
- 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
 - 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。
- (2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程を理解できる。
- 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
 - 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
 - 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

各回の内容

1. 教えはくむ心理学とは～子どもを理解することとは～
2. 人間の発達について考える 1) 発達とは 2) 遺伝と環境 3) 学習の臨界期と敏感期
3. 発達の基礎理論
4. 運動機能の発達
5. 言語の発達・情動の発達
6. 社会性の発達
7. 知的発達のメカニズム～認知機能の発達～
8. 人格発達の基礎 1) フロイトの発達段階説 2) エリクソンの発達理論 3) ハヴィガーストの発達課題
9. 記憶について
10. 学ぶことと考えること
11. 学習理論・主体的動機づけ 1) ほめることの大切さ 2) やる気を考える
12. 学級という社会 1) 集団づくり 2) 教育成果の評価
13. どのように教えるか
14. 困難を抱える子どもたち 1) 発達障害とは 2) 主な発達障害
15. 特別な社会的ニーズのある子どもたちへの支援

保育の心理学

準備学習（予習・復習等）

1. 次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書や事例をもとに学習し、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（実務家をゲスト講師として招聘予定）
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、子ども理解や保護者支援に関する理解を深める一助とする。
- ・視覚教材も活用し（ドキュメンタリー映画等）学習する。
- ・遠隔授業を7回実施する

評価方法

小レポート50点 最終レポート50点
レポートは、その都度返却する

教科書

手に取るように発達心理学がわかる本（小野寺敦子 かんき出版）
保育の心理学 実践につながる。子どもの発達理解（井戸ゆかり編著 萌文書林）

参考文献

やさしい教育心理学（鎌原雅彦・竹綱誠一郎著、有斐閣アルマ）

子どもの理解と援助

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、子どもの最善の利益を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

子どもの視座に立って発達や行動の意味について事例を通して考える。子どもと保育者とのかかわりや、子ども同士のかかわりについて考え、個としての育ちと集団の中での関係性の育ちとの両面から、子どもの主体的な育ちを支える保育環境について考える。具体的には、実習場面で経験したエピソードを保育デザインマップに描きだして自らの援助の在り方を可視化し、子ども理解と援助の関連を省察する。障害のある子どもの保育の事例についてグループカンファレンスを行い、共有後に考察する。多様な子どもや家庭への子育て支援について最後に学び、学修のまとめとする。

到達目標

- (1) 幼稚園教育における幼児理解の基本の知識を身に付ける
- (2) 幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきの要因を把握するための原理や対応の方法について理解する。
- (3) カンファレンスを通して、子どものための保育実践を見直し改善する方法を理解する

各回の内容

1. 子ども理解の重要性～子ども理解から生まれる多様な援助～
2. 子どもを見る「まなざし」～保育者の願いと子どもの育ちのズレの現実～
3. 子どもの行為の意味を考える1～噛みつきのエピソードから～
4. 子どもの行為の意味を考える2～こだわりの強い子どもの育ちを考える～
5. 子ども理解の基礎としてのカウンセリングマインド
6. 今、求められる子ども主体の「協同的な学び」～新制度時代に求められる「保育の質」
7. 子ども主体の「協同的な学び」を考える1～幼稚園実習の事例で保育デザインマップ作成
8. 子ども主体の「協同的な学び」を考える2～省察と対話～
9. 子ども主体の「協同的な学び」を考える3～新たな保育デザインマップを作る～
10. 保育における「観察」「記録」「カンファレンス」1～かかわりの省察と計画の改善～
11. 保育における「観察」「記録」「カンファレンス」2～施設実習について計画を作成する
12. 子ども理解を深めるカンファレンス1～障害のある子どもの保育から考える～
13. 子ども理解を深めるカンファレンス2～人間の多様性への理解に向けて（グループワーク）
14. 子ども理解を深めるカンファレンス3～対話の共有と考察～
15. 多様な子どもや家庭への子育て支援・家庭支援

子どもの理解と援助

準備学習（予習・復習等）

授業で使用した教科書、参考文献の資料をよく読むこと。
実習の計画や記録を授業に効果的に活用できるように、持参すること。
常に、積極的にグループワークに参加し、全体でのプレゼンテーションにも参加して考察を深めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・各回に事例を使用し、事例を通じたカンファレンスを多用する
- ・グループワークを通して、プレゼンテーションを行い、対話的に考察の深化を図る
- ・担当教員の発達相談支援センター等での実務経験を基に、保護者に対する相談支援や、子ども理解に関する考察の深化を図る
- ・オンデマンド方式のoffice365における資料配布、応答型の遠隔授業をする場合がある

評価方法

- (1) 幼稚園実習 においての子ども主体の協働的な学びに関する場面を保育デザインマップに描きだして考察する（小レポート）50%
- (2) 障害のある子どもの理解や多様な子どもの保育についてカンファレンスを行い、考察する（課題レポート） 50%

教科書

高嶋景子・砂上史子・森上史郎『新しい保育講座3 子ども理解と援助』（ミネルヴァ書房）

参考文献

子ども主体の「協働的学び」が生まれる保育（大豆生田啓友、学研）
保育の質を高める（大宮勇雄、ひとなる書房）

保育・教職実践演習(幼稚園)

科目のねらい

保育現場でのあらゆる事態に臨機応変に対応するための思考力・判断力・表現力(DP2)および知識・技能の育成(DP1)をめざす科目である。主体性・多様性・協同性(DP3~5)を学ぶ科目である。

担当教員	齋藤美智子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

保育現場で活かすことの出来る知識・技術を学ぶことはもちろんのこと、さらに、グループワークを通し、保育現場同様、仲間とともに事例を深める体験をする。

到達目標

グループワークを通し、他の学生のアイデアから、新しい学びを得るとともに、仲間と保育を深める喜びを感じる。保育現場で役に立つ実践力を身に付ける。

各回の内容

1. 保育者とは(役割・心構え・職務内容など)
2. 事例研究
3. 事例研究
4. 事例研究
5. まとめ 発表
6. ゲストスピーカー講話「保育の現状と課題」ー保育現場経験者を招く予定
7. グループワーク
8. 事例研究
9. 事例研究
10. 事例研究
11. 事例研究
12. まとめ 発表
13. ゲストスピーカー講話「保育の現状と課題」ー保育現場経験者を招く予定
14. グループワーク
15. まとめ

保育・教職実践演習(幼稚園)

準備学習（予習・復習等）

- ・使用した資料などを読み返し、教材研究や子どもへの理解を深める。
- ・予習として「親と子の広場」への参加や保育施設等のボランティアを行い、子どもと接する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

事例の読み取り報告、グループディスカッション
実務家を招いて保育現場の話聞き、実践を深める

評価方法

小レポート30%
レポート70%

教科書

「子どもとつながる子どもがつながる」ひとなる書房

参考文献

その都度、授業で紹介する。

保育実習指導

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）ための、総合的な科目である。

担当教員	長谷川・坂本・齋藤
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年・2年
時間数	90分×15回（1年後期より2年前期まで、15回以上行う）
単位数	2

授業の概要

- ・保育実習（保育所）に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法、保育士の役割や乳幼児の発達成長にかかわる援助のあり方に関する基本的事項などを理解する。
- ・保育実習（施設）について、その目的や内容、方法、施設における保育士等の役割や利用者にかかわる援助のあり方に関する基本的事項を理解する。
- ・実習日誌、指導案の書き方について学ぶ。
- ・保育実習（保育所）、保育実習（施設）それぞれの実習後は、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の課題を明確化する。

到達目標

- （1）実習の意義や目的、内容を理解する。
- （2）子どもや利用者の人権、最善の利益の考慮、守秘義務について理解する。
- （3）保育・支援計画、実践、記録、評価について理解する。
- （4）保育所や施設における保育士の役割、援助の在り方について理解する。
- （5）実習で体験し学んだことを整理して確認し、自己の課題を明確にできる。

各回の内容

1. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
2. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
3. 保育所・施設についての基本的な理解、実習の概要
4. 実習の目的・内容・方法の理解
5. 実習の目的・内容・方法の理解
6. 実習の目的・内容・方法の理解
7. 子ども・利用者の人権と最善の利益、守秘義務について
8. 実習に向けての自己課題の明確化
9. 実習日誌の書き方についての指導
10. 指導案の書き方の指導
11. 実習に際しての留意事項
12. 実習の体験の発表と共有化
13. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
14. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
15. 実習の自己評価と課題の発見、個別指導
16. 各実習の事前事後に上記の指導を行う。

保育実習指導

準備学習（予習・復習等）

- ・配布資料や教科書を熟読し、実習の意義や観察の視点、記録の書き方などについて理解に努める。
- ・授業時間外でも、実習に向けて、教材研究や記録の練習などに取り組む。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合わせて準備を行う。
- ・実習後は、今後の課題・目標を基に、次の実習に向けて準備を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・指導案作成や教材研究、実習の振り返り等、対話する場を設ける。

評価方法

課題レポート50%（返却は、掲示等で連絡する）、振り返り30%（授業内で返却）、提出物20%（指導案や教材等、授業内で返却）

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「福島県保育実習施設」、福島県保育者養成校連絡会編
- 3：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館
- 4：「ことばと表現力を育む児童文化」、川勝泰介ら著、萌文書林

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習指導

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）ための、総合的な科目である。

担当教員	長谷川美香・齋藤美智子
授業形態	演習
学期	2年前期・後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

- ・保育実習（保育所）での課題をもとに、保育実習に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法などを学び、理解を深める
- ・実習後は、実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

到達目標

- (1) 保育実習の目的や内容、方法などを理解し、総合的に保育について学ぶことができる。
- (2) 保育の実践力を培うことができる。
- (3) 保育士の専門性や職業倫理について理解する。
- (4) 実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、今後の課題を明確にすることができる。

各回の内容

1. 保育実習に向けての課題の確認、実習の目的、内容の理解
2. 保育実習に向けての課題の確認、実習の目的、内容の理解
3. 保育実習において求められる内容について
4. 保育の計画と実践、評価
5. 保育の計画と実践、評価、実習の留意事項の確認
6. 実習体験の共有化、発表
7. 実習の総括と自己評価、課題の明確化、個別指導
8. 実習の総括と自己評価、課題の明確化、個別指導

保育実習指導

準備学習（予習・復習等）

- ・保育実習（保育所）を振り返り、に向けての課題を基に、各自準備を進める。
- ・授業時間外も教科書を読み、教材研究、日誌、指導案などについて準備する。
- ・事前訪問（オリエンテーション）で実習先からの指示があった場合は、その内容に合った準備も行う。
- ・実習後は、今後の課題・目標に向けて、さらに保育の知識を深め、実践力を養うよう、努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・指導案作成や教材研究、実習の振り返り等、対話する場を設ける。

評価方法

課題レポート50%（返却は、掲示等で連絡する）、振り返り30%（授業内で返却）、提出物20%（指導案や教材等、授業内で返却）

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。

保育実習指導

科目のねらい

本科目は以下のDPに関わる科目である。
 (DP1) 保育者として求められる専門的知識・技術を修得している。
 (DP2) こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけている。
 (DP3) 保育に必要なコミュニケーション力を身につけている。
 (DP4) 保育者として協働する必要性を理解できる。
 (DP5) 「子どもの最善の利益」を考え続けることができる。

担当教員	坂本真一・山下敦子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

保育実習の目的や内容、方法などを理解する。また実習後は、実習で体験し学んだことを整理し、自己評価を行い、さらに、保育に対する課題や認識を明確にする。

到達目標

科目のねらいを達成するために以下のことを理解・習得する。
 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

各回の内容

- | | |
|---------|--|
| 1. 事前指導 | 児童福祉施設等実習施設の理解
子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 |
| 2. 事前指導 | 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり
子どもの保育と保護者支援 |
| 3. 事前指導 | 保育の知識・技術を活かした保育実践 |
| 4. 事前指導 | 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 |
| 5. 事前指導 | 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
保育士の専門性と職業倫理 |
| 6. 事後指導 | 実習の総括と評価（実習の振り返り） |
| 7. 事後指導 | 実習の総括と評価（実習体験の発表と共有化） |
| 8. 事後指導 | 実習の総括と評価（自己評価と自己課題の明確化） |

保育実習指導

準備学習（予習・復習等）

配付資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。
実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

実習施設ごとに事前準備および事後の振り返りを進めることを基本とするが、グループワークを通して意見交換や実習体験の共有、課題の検討なども行い学びを深める。
面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行う。

評価方法

毎回の振り返り30%
レポート50%
提出物20%

教科書

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』
福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』

参考文献

必要に応じてその都度紹介する。

保育実習（施設）

科目のねらい

本科目は以下のDPに関わる科目である。
 (DP1) 保育者として求められる専門的知識・技術を修得している。
 (DP2) こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけている。
 (DP3) 保育に必要なコミュニケーション力を身につけている。
 (DP4) 保育者として協働する必要性を理解できる。
 (DP5) 「子どもの最善の利益」を考え続けることができる。

担当教員	長谷川・齋藤・坂本・狩野・奥田・山
授業形態	実習型
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

授業の概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。

到達目標

科目のねらいを達成するために以下のことを理解する。

児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。

観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。

既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。

保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

各回の内容

1. 10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。

2. 1. 施設の役割と機能

(1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり

3. 1. 施設の役割と機能

(2) 施設の役割と機能

4. 2. 子どもの理解

(1) 子どもの観察とその記録

5. 2. 子どもの理解

(2) 個々の状態に応じた援助や関わり

6. 3. 施設における子どもの生活と環境

(1) 計画に基づく活動や援助

7. 3. 施設における子どもの生活と環境

(2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応

8. 3. 施設における子どもの生活と環境

(3) 子どもの活動と環境

9. 3. 施設における子どもの生活と環境

(4) 健康管理、安全対策の理解

10. 4. 計画と記録

(1) 支援計画の理解と活用

11. 4. 計画と記録

(2) 記録に基づく省察・自己評価

12. 5. 専門職としての保育士の役割と倫理

(1) 保育士の業務内容

13. 5. 専門職としての保育士の役割と倫理

(2) 職員間の役割分担や連携

14. 5. 専門職としての保育士の役割と倫理

(3) 保育士の役割と職業倫理

保育実習（施設）

準備学習（予習・復習等）

保育実習指導 の内容を理解する。
実習施設による事前オリエンテーションの内容を理解する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
実習期間中は実習施設の実習指導者の指示に従って実習を行う。
実習期間中に科目担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

評価方法

実習先の評価70%
実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編 『保育実習の手引き』
福島県保育者養成校連絡会編 『福島県保育実習施設』

保育実習

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）のための、総合的な科目（実習）である。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

授業の概要

- ・保育所の保育を実際に実践し、保育実習での学びや、既習の教科内容を基に、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
- ・家庭と地域の生活実態に触れ、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養う。
- ・子育てを支援するために必要とされる能力を修得する。

到達目標

- (1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解できる。
- (2) 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通し、保育理解を深められる。
- (3) 既習の教科、保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- (4) 保育の計画、実践、観察、記録、自己評価などについて実際に取り組み、理解できる。
- (5) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解できる。
- (6) 保育士としての自己課題を明確にできる。

各回の内容

1. 保育所の役割や、養護、教育が一体となって行われる保育について理解する。
2. 子どもの心身状態、活動を観察し、保育への理解を深める。
3. 保育士の業務や職業倫理について理解する。
4. 保育所における生活の流れや、保育の展開について理解する。
5. 環境や、生活、遊びを通して行う保育を理解する。
6. 保護者や地域への子育て支援について理解する。
7. 職員間や関係機関との連携について理解する。
8. 計画を作成、実践、省察、評価することを通し、保育の過程を理解する。
9. 10日間、上記の内容について実習を行う。詳細については、実習先によって異なる。

保育実習

準備学習（予習・復習等）

- ・教科書は授業外においてもよく読んでおく。
- ・保育実習（保育所）を踏まえ、自己課題を明確にしたうえで、準備を進める。
- ・日誌、指導案、教材研究についても、各自準備を進める。
- ・事前訪問（オリエンテーション）で実習先から事前準備についてなど、指示があった場合はその内容に合わせて準備する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育現場において、実践的に学ぶ。

評価方法

実習先の評価70%（評価票を基に、個人面談を行う）、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%（記録内容やその他の実習の様子については、必要に応じて実習後に個別指導したり、全体に指導が必要な内容については、授業内で周知したりする。）

教科書

- 1：「保育実習の手引き」、福島県保育者養成校連絡会編
- 2：「保育所保育指針解説書」、厚生労働省編、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。

保育実習

科目のねらい

本科目は以下のDPに関わる科目である。
 (DP1) 保育者として求められる専門的知識・技術を修得している。
 (DP2) こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけている。
 (DP3) 保育に必要なコミュニケーション力を身につけている。
 (DP4) 保育者として協働する必要性を理解できる。
 (DP5) 「子どもの最善の利益」を考え続けることができる。

担当教員	長谷川・齋藤・坂本・狩野・奥田・山
授業形態	実習型
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

授業の概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。

到達目標

科目のねらいを達成するために以下のことを理解する。

既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。

家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。

保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。

実習における自己の課題を理解する。

各回の内容

1. 10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。

2. 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能

3. 2. 施設における支援の実際
(1) 受容し、共感する態度

4. 2. 施設における支援の実際
(2) 個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解

5. 2. 施設における支援の実際
(3) 個別支援計画の作成と実践

6. 2. 施設における支援の実際
(4) 子ども(利用者)の家族への支援と対応

7. 2. 施設における支援の実際
(5) 各施設における多様な専門職との連携・協働

8. 2. 施設における支援の実際
(6) 地域社会との連携・協働

9. 3. 保育士の多様な業務と職業倫理

10. 4. 保育士としての自己課題の明確化

保育実習

準備学習（予習・復習等）

保育実習指導 の内容を理解する。
実習施設における事前オリエンテーションの内容を理解する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
実習期間中は実習施設の実習指導者の指示に従って実習を行う。
実習期間中に科目担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

評価方法

実習先の評価70%
実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編 『保育実習の手引き』
福島県保育者養成校連絡会編 『福島県保育実習施設』

こどもの食と栄養

科目のねらい

健康なからだと心を育むために、子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となるものです。保育者として、子どもの健康と食生活の現状と、健康な生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学ぶ。栄養の基礎について理解し、認定保育園・保育所・幼稚園・家庭・地域において、子どもの発達や状況に応じて食の支援をできるよう、食育の企画・実施・評価についても学ぶ。

担当教員	齋藤 瑛介・齋藤 広子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

厚生労働省より、食を通じた子どもの健全育成のねらいとして、現在をいきいきと生き、かつ生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての食を営む力を育てるとともに、それを支援する環境づくりを進めること。食べることは生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。子どもの健やかな心と身体を育むためには、「なにを」「どれだけ」食べるかということとともに、「いつ」「どこで」「誰と」「どのように」食べるかということが、重要になります。人との関わりも含め、これらのほどよいバランスが、心地よい食卓を作り出し、心の安定をもたらし、健康な食習慣の基礎になっていきます。またそうした安定した状態の中で、食べるという自分の欲求に基づき行動しその結果から学ぶ自発的体験を繰り返し行うことで、子どもの主体性が育まれることにもなります。

乳幼児期から、発育・発達段階に応じた豊かな食の体験を積み重ねていくことによって、生涯にわたって健康でいきいきとした生活を送る基本としての食を営む力が育まれていきます。また、食べることは、すべての子どもが、家庭、保育所、幼稚園、学校、地域等さまざまな環境との関わりの中で、毎日行う営みです。すべての子どもが、豊かな食の体験を積み重ねていくことができるように、個々の場での取組を充実させていくとともに、関連する機関が連携して、子どもの成長に応じた取組を推進していく必要があります。これらを保育士として学ぶ。

到達目標

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。

子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。

養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。

家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。

関連するガイドラインや近年の近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

こどもの食と栄養

各回の内容

1. 子どもの健康と食生活の意義（１）子どもの心身の健康と食生活（２）子どもの食生活の現状と課題
「あなたの思う子どもの食と栄養とは」についてのレポート提出 1 栄養に関する基礎的知識に関する小テスト 2

2. A.特別な配慮を要する子どもへの対応
疾病及び体調不良及び体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもへの対応

3. 栄養に関する基礎知識（１）栄養の基礎概念と栄養素の種類と機能栄養に関する基礎的知識に関する
針・基本的事項、活用に関する基本的事項、使用にあたっての留意点 3小テスト（２）食事摂取基準策定方

4. 栄養に関する基礎知識（３）栄養の基礎概念と栄養素の種類と機能栄養に関する基礎的知識に関する
針・基本的事項、活用に関する基本的事項、使用にあたっての留意点 4小テスト（４）食事摂取基準策定方

5. 子どもの発育・発達と食生活（１）発育・発達の基本的な考え方（２）身体の発育発達（３）運動機能と睡眠機能の発達（４）こころの発達
（５）発育の評価（５）栄養評価性 5小テスト

6. 子どもの発育・発達と食生活，成長期に対応した栄養と食生活 6小テスト
（１）妊娠期の栄養と食生活（２）新生児期・乳児期の発育・発達と食生活 乳汁栄養 人工栄養

7. 子どもの発育・発達と食生活，成長期に対応した栄養と食生活（１）乳汁栄養・乳児期の授乳

8. 子どもの発育・発達と食生活，成長期に対応した栄養と食生活（１）離乳期における栄養・食生活 ・離乳の意義と食生活

9. 子どもの発育・発達と食生活，幼児期の心身の発育と食生活（１）幼児期のからだの発育・発達の特徴（２）幼児期のこころの発達の特徴（
３）幼児期における栄養・食生活

10. 子どもの発育・発達と食生活，成長期に対応した栄養と食生活 2レポート提出

11. B.特別な配慮を要する子どもへの対応 疾病及び体調不良及び体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもへの対応

12. 子どもの発育・発達と食生活（１）学童期の心身の発達と食生活（２）生涯発達と食生活

13. 食育の基本と内容（保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 食育のための環境 食育の展開
地域の関係機関や職員間の連携 食生活指導及び食を通じた保護者への支援） 3レポート提出

14. 食育を進めるための演習 7レポート提出

15. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養（１）家庭における食事と栄養（２）児童福祉施設における食事と栄養

16. 試験

こどもの食と栄養

準備学習（予習・復習等）

予習として、授業で指示された範囲の教科書の該当箇所を読みわからない点を調べておく。
本授業では、小テストを行いますので、テスト範囲を指示しますので復習しておく。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・教科書に基好き、知識を理解し、更にこれらを応用し子どもの食と栄養について保育者として対応できるように学ぶ。
- ・知識の理解度の判定のため、小テストの実施とレポート提出を行います。
- ・全ての講義を受講の義務のため、欠課した時間に充当する、課題レポートを提出する事とします。提出なき場合は、欠課となり、単位の修得ができない場合もあります。

評価方法

テーマ別小テスト40%、正規試験40%、レポートの提出10%、授業への取り組み（リアクションペーパー等）10%によって総合的に評価する。

教科書

子どもの食と栄養（健康なからだところを育む小児栄養学） 診断と治療社 *ISBN 978 - 4 - 7878 - 2142 - 3

参考文献

- 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）
- 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）
- 「厚生労働省保健指導における学習」

保育相談実践演習

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を身につけ（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につけるため（DP3）の専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

地域における子育て支援広場の意義や役割、実際に学ぶ。
保育参加観察を通して、保育者の保護者支援について学び考える。

到達目標

- (1) 地域子育て支援広場に参加し、保護者支援の実際を学ぶ。
- (2) 保護者エンパワーメントの意味と実践による課題を整理し、考察する

各回の内容

1. 地域における保育相談支援とは
- 子育て支援の意味について考える
2. 保護者理解と保育相談支援の実際
- 保護者エンパワーメントについて考える
3. 保育者の専門性と保育・子育て支援
- 地域の中でつながり合うこと -
4. 地域のことを理解する
- 父親の子育て支援とは -
5. 保育・子育て支援の環境構成
- 多胎児の育児と子育て支援 -
6. 保護者とのかかわりと子育て支援の意味
- グループワークによる課題の整理
7. 省察 実践の中の気づき
- グループワークとプレゼンテーション準備
8. 省察 まとめ
- プレゼンテーションによる考察の共有

保育相談実践演習

準備学習（予習・復習等）

地域子育て支援広場に参加することで、保護者支援に関心を持つ。

参加観察においては積極的に保護者とかかわり、子育て支援の意味について深く考える機会にすること。

参加後のカンファレンスにおいて、話し合いに積極的に参加して、自己の課題を明確にすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・地域子育て支援広場に参加し、保護者交流の意味や、保護者ニーズの現状について考え、レポートする。
- ・保護者と積極的に交流する経験の中で自ら学び、考える体験をする

評価方法

中間レポート 50% 「地域で行う子育て支援の意味」

最終レポート 50%

教科書

子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習 萌文書林 入江礼子・小原敏郎・白川佳子編著

参考文献

なし

こどもの保健（演習）

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるため（DP5）の専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	7.5
単位数	1

授業の概要

保育における保健的な観点を踏まえ、こどもの健やかな育ちについて学ぶ。こどもの身体的な特徴として抵抗力の弱さや危険回避能力未熟さなどがある。これらの特徴を踏まえ、こどもの成長発達に沿った適切な養護の方法、体調不良時の適切な対応について具体的に理解する。

到達目標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。
2. 関連するガイドライン（ ）や近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・保育における感染症対策について、具体的に理解できる。
3. こどもの体調不良等に関する適切な対応について、具体的に理解し実践できる。
4. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（ ）や近年のデータに基づく、こどもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解できる。
5. こどもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解できる。
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、
「2018年改訂版
保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣・文部科学省・厚生労働省）

こどもの保健（演習）

各回の内容

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助

2. 保育における健康及び安全管理

3. こどもの体調不良時等に対する適切な対応

4. 応急処置（福島市消防署より外部講師）

5. 救急処置及び救急蘇生法（福島市消防署より外部講師）

6. 感染症対策・感染症発生時と罹患後の対応

7. 保育における保健的な対応

8. 健康及び安全の管理の実施体制

こどもの保健（演習）

準備学習（予習・復習等）

1. 次回講義内容の単元を読み予習に努める
2. 講義後は内容の復習を行い、具体的な理解に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・個々の演習、またグループで共有し学びを深める。
- ・地域の外部講師による特別講義（実務家をゲスト講師として招聘予定）消防署救急隊員による実践
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、健康観察の仕方や支援方法に関する理解を深める一助とする。
- ・視覚教材も活用し（ドキュメンタリー等）学習する。

評価方法

1. 小テスト又はレポート 3回程度（100%）
演習への取り組み態度、講義を積極的な学びの場に行っているか等を振り返り用紙も含めて評価する。振り返り用紙は毎時間集め、次の講義時に返却する。

教科書

子どもの保健・演習 すこやかな育ちをサポートするために
兼松百合子 他著 同文書院

参考文献

こどもの健康と安全（演習）

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）こどもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につけ（DP2）、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになる（DP5）専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年
時間数	7.5
単位数	1

授業の概要

保育における保健的な視点を踏まえ、子どもにとっての健康的で安心できる環境づくりや日常的な養護について学ぶ。子どもが体調不良の際にどのように対応するか等具体的な方法を学ぶ。

到達目標

1. 子どもの健康状態を把握できる。
2. 子どもの日常生活における養護について具体的に学び実践できる。
3. 集団保育における健康管理について具体的に学び実践できる。
4. 集団保育における健康教育について具体的に学び実践できる。

各回の内容

1. 日常生活の養護について学ぶ
2. 授乳・調乳について学び、調乳ができる。
3. 離乳食・幼児食について学び、食事の与え方について演習する。
4. 子どもの睡眠を理解し、睡眠時の支援を学ぶ
子どもと遊び、子どもにとっての遊びの意味身体づくりの視点から学び支援の実際を知る
5. 身体の清潔について（沐浴など）沐浴演習を行う
6. 排泄・トイレとトレーニング
トイレトレーニングの実践方法を学ぶ
7. 歯磨き 歯磨きの演習を行う
8. まとめ

こどもの健康と安全（演習）

準備学習（予習・復習等）

1. 講義受講の前に予習として学習を進める
2. 講義受講後は、復習に努める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・個々の演習、またグループで共有し学びを深める。
- ・担当教員の自治体の保健センター・保健所保健師の実務経験をもとに、養護の方法、健康観察の仕方や支援方法に関する理解を深める一助とする。
- ・視覚教材も活用し（ドキュメンタリー）学習する。

評価方法

小テストを行い、内容の理解について確認する。（70%）
具体的な養護内容や方法についてどのぐらい身につけたかチェックシートで自己評価する（30%）
チェックシート、小テストはその都度返却する

教科書

子どもの保健・演習 すこやかな育ちをサポートするために
兼松百合子 他著 同文書院

参考文献

その都度紹介する

こども家庭支援論

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）と共に、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）ための科目である。

担当教員	長谷川美香
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

- ・家庭支援の意義、目的と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況や課題、子育て家庭への支援体制、多様な支援の展開と関係機関との連携などについて学び、理解を深める。
- ・保育の専門性を活かした支援について理解し、保育者になった際の支援の在り方を考える。

到達目標

- (1) 家庭支援の意義と目的を理解する。
- (2) 家庭支援の現状や課題について理解する。
- (3) 保育の専門性を活かした支援について理解する。
- (4) 子育て家庭に対する支援体制について理解する。
- (5) 子育て家庭へのニーズに応じた多様な支援展開について理解する。

各回の内容

1. 家庭支援の意義、必要性
2. 家庭支援の目的、機能
3. 保育の専門性を活かした支援、意義
4. 保育者が、子どもの育ちの喜びを共有することについて
5. 保育者の、保護者、地域の子育て実践力を向上するための支援
6. 保育者が支援するうえで必要な態度、姿勢
7. 保育者の、個々の家庭状況に応じた支援の必要性
8. 保育者の、地域資源の活用、自治体や関係機関との連携
9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10. 子育て支援政策、次世代育成支援政策の推進
11. 多様な支援の展開、関係機関との連携（子ども家庭支援の内容、対象）
12. 多様な支援の展開、関係機関との連携（保育所などを利用している家庭への支援）
13. 多様な支援の展開、関係機関との連携（地域の子育て家庭への支援）
14. 多様な支援の展開、関係機関との連携（要保護児童や家庭への支援）
15. 多様な支援の展開、関係機関との連携（子ども家庭支援の現状、課題）、まとめ

こども家庭支援論

準備学習（予習・復習等）

- ・教科書や授業での配布資料をよく読む。
- ・家庭支援に関するニュース、国、地方自治体の政策などにも日ごろから目を向け、調べる。
- ・学内の子育て支援広場や、その他の親子にかかわる場において、現状を見聞きするなど、家庭支援について体験的に学ぶ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・グループワークで、対話を通し、考える場を設ける。
- ・家庭支援の実例について、適宜スライドを使用する。

評価方法

小レポート30%（授業内で返却する）、グループワークの取り組み姿勢、発表内容20%（振り返りシートを用いる、発表内容についても授業内で解説する）、最終レポート50%（掲示等で連絡し、返却する）

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

子育て支援

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、保育に必要なコミュニケーション力を身につけ（DP3）、保育者として協働する必要性を理解するための科目である（DP4）。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×7.5回
単位数	1

授業の概要

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

到達目標

保育者として求められる専門的知識・技術を修得し、また、保育に必要なコミュニケーション力を身につけ、保育者として協働する必要性を理解するために以下のことについて理解する。

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

各回の内容

1. 保育士の行う子育て支援の特性について（1）保護者の支援、（2）保護者との相互理解と信頼関係の形成、（3）支援のニーズへの気づきと多面的な理解、（4）子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
2. 保育士の行う子育て支援の展開について
（1）子ども及び保護者の状況・状態の把握
3. 保育士の行う子育て支援の展開について
（2）支援の計画と環境の構成
4. 保育士の行う子育て支援の展開について
（3）支援の実践・記録・評価・カンファレンス
5. 保育士の行う子育て支援の展開について
（4）職員間の連携・協働
6. 保育士の行う子育て支援の展開について
（5）社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
7. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）について
（1）保育所等における支援
8. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）について
（2）保育所等以外における支援

子育て支援

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業の最後に予習内容を示す。予習したことを踏まえて授業を行う。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じて確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

理解を深めるためにグループワークを通して意見交換や課題の検討などを行う。

また、グループワークでの成果を発表する機会を設ける。

評価方法

レポート50%

授業の振り返り(リアクションペーパー)50%

教科書

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

その都度紹介する。

保育表現技術 (音楽表現)

科目のねらい

本科目は保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための(DP1)専門科目である。

担当教員	高田真紀子他
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

個人レッスンを通して1年生で学んだ表現力をさらに向上させ、保育の現場で取り上げられる曲に数多く親しみ、豊かな表現ができるようにさらに深く学ぶ。2年生の実習での課題曲に取り組み、保育現場で日常行われる音楽活動と連携させる。各自のレベルに合わせてステップアップをはかる。

到達目標

- (1) 保育の現場で働くことを意識し、堂々と発表できるようにする。
- (2) 課題の本以外にも様々な教本に触れ、多くのレパートリーを作る。
- (3) 簡易伴奏ができる技術を学ぶ。

各回の内容

1. オリエンテーション
保育の現場で必要とされる音楽について
2. 発声練習
童謡を歌う際の声の出し方を学ぶ
3. 楽譜と音楽
楽譜に込められた歌詞の意味とイメージを考えながら演奏する
4. 音階と調号
童謡に使われている音階と調号の意味について学ぶ
5. 伴奏法
曲にふさわしい伴奏方法をいろいろな角度から考える
6. 音程
正しい音程で歌うことができるように自分の声の出し方を考えてみる
7. 和音
基本形・第1転回形・第2転回形を試して弾いてみる
8. ソルフェージュ
音符の長さ、速さ、奏法、曲想について学ぶ 初見演奏を試してみる
9. コードネーム1
コードネームの意味を理解し、和音弾きをする
10. コードネーム2
コードネームの書かれた曲に伴奏をつけてみる
11. コードネーム3
曲にふさわしいリズムを使い、伴奏方法を展開させる
12. コードネーム4
コードネームを使い片手伴奏で和音をつける
13. コードネーム5
コードネームを使い両手伴奏で和音をつける
14. リズムと拍
リズムの持つ意味を考え、拍子の強拍と弱拍の位置を確認する
15. 簡易伴奏
好きな曲に今まで学んだことを生かして伴奏を創作して付けてみる
16. 個人発表

保育表現技術 (音楽表現)

準備学習 (予習・復習等)

- (1) それぞれに出された課題曲を完全に弾き歌いできるように練習する。
- (2) ピアノ練習室を積極的に活用して練習する。

ピアノは毎日の継続練習が必要です。授業には十分に練習を積んでから望むようにいたしましょう。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- (1) 保育の現場で必要とされる同様の弾き歌いを展開させる。
- (2) 各クラスを分け、指導者と1対1の個人レッスンをを行う。
- (3) それぞれのレベルに応じてテキストの中から指定された曲を弾き歌いで演奏する。
- (4) 講師の実務経験(音楽療法士・リトミック上級指導者・福島大学非常勤講師・生涯学習センター講師)を基に、保育現場で実践的に活用できる具体的方法について、指導する。

評価方法

- (1) 任意の1曲を弾き歌いで演奏する。 90%
簡易伴奏の弾き歌いを通して、豊かな音楽表現ができているかを評価する。
- (2) 授業内評価。 10%
保育実践を意識し、演奏できるレパートリーを増やしているかを評価する。

教科書

こどものうた200 (チャイルド社)
任意の子どもの歌の本

参考文献

ジュニアクラスの楽典集 (ドレミ出版)

特別研究 子育て支援

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、「子どもの最善の利益」を考え続けることができる態度を身につける（DP5）ための科目である。

担当教員	長谷川美香
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

子どもを取り巻く環境はどうなっているのか、育児不安を持つ保護者が多いといわれるのはなぜかなど、子育ての現状を把握しながら、それぞれが興味、関心を持ったテーマについて研究を進め、論文にまとめる。

到達目標

- (1) 自分が選んだテーマに関し、保育者としての専門的知識や技術をどのように活かすことができるのかを考えることができる。
- (2) 子育て支援の意義を理解する。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 昨今の子どもを取り巻く環境、子育て支援の現状

3. 昨今の子どもを取り巻く環境、子育て支援の現状

4. 昨今の子どもを取り巻く環境、子育て支援の現状

5. 研究テーマの検討

6. 研究テーマの決定、発表

7. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）

8. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）

9. 論文作成

10. 論文作成

11. 論文作成

12. 論文作成

13. 中間報告

14. 論文作成

15. 論文作成

16. 論文作成

特別研究 子育て支援

17. 論文作成

18. 論文作成

19. 論文作成

20. 論文作成

21. 論文作成

22. 論文作成

23. 論文作成

24. 最終報告

25. 校正・印刷・製本準備

26. 校正・印刷・製本準備

27. 校正・印刷・製本準備

28. 特別研究発表会に向けての準備

29. 特別研究発表会に向けての準備

30. 特別研究発表会に向けての準備

特別研究 子育て支援

準備学習（予習・復習等）

- ・参考文献（その都度提示）をよく読む。
- ・選んだテーマに関する文献をよく読み、資料収集をする。
- ・調査を通し、選んだテーマに関する知識を深める。
- ・中間発表、最終発表等では、事前準備をしっかりと行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・選んだテーマに関する知識を深めるだけでなく、他者のテーマへの知識も得るために、対話的に考える場をつくる。
- ・子育て支援広場への参加を通し、実践的に子育て支援の意義を捉える場をつくる。

評価方法

研究に取り組む姿勢50%（リアクションペーパーを用い、返却する。）
論文内容50%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

特別研究 こどもとことば

科目のねらい

本科目は保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための総括的教科であり（DP1）、子どもの最善の利益を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

こどもの言葉の発達とそれを支える保育や家庭環境などについて問題意識を持ち、研究テーマを設定して研究を進め、論文としてまとめる。

到達目標

実習や参加観察の場で問題意識をもち、自分のテーマについて論理的に考察することができるようになる。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 研究テーマの検討
3. 参加観察記録による話し合い
4. 参加観察記録による話し合い
5. テーマの課題についての話し合いと設定
6. 実習で出会ったエピソードの記録
7. 実習で出会ったエピソードについてのカンファレンス
8. 実習で出会ったエピソードのカンファレンス
9. 研究方法の検討
10. 研究方法の検討
11. 研究方法の検討
12. フィールドワークの記述と共有
13. フィールドワークの記述と共有
14. フィールドワークの記述と共有
15. 中間まとめ
16. 実習であったエピソードのカンファレンス

特別研究 こどもとことば

17. 実習であったエピソードのカンファレンス

18. 論文作成

19. 論文作成

20. 論文作成

21. 論文作成

22. 論文作成

23. 論文作成

24. 論文修正

25. 論文修正

26. 論文修正

27. 発表準備

28. 発表準備

29. 発表準備

30. 最終考察の共有と意見交換

特別研究 こどもとことば

準備学習（予習・復習等）

広場やボランティアでの子どもの姿や実習で出会った事例など関心を持って自分の課題を見つける。
フィールドワークや実践の中から選択した研究課題を深め、文献や調査での裏付けを積み上げながらまとめること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育実習・教育実習の記録を基に、エピソードを抽出し、カンファレンスを行う
- ・子育て支援広場に積極的に参加し、自分のテーマに沿って、観察やインタビューを行い、調査研究に活用する
- ・Zoomによる遠隔授業を行うことがある

評価方法

事例（フィールドワーク）に関して、カンファレンスでの報告内容 30%
テーマの新規性・論旨・考察の論理性 70%

教科書

なし

参考文献

その都度紹介する

特別研究 こどもと福祉

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための科目である（DP1）。また、「子どもの最善の利益」を考え続けることができるようになるための科目である（DP5）。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

こども家庭福祉に関する研究テーマを設定し、研究をすすめ、論文としてまとめる。

到達目標

研究および論文作成を通して保育士に求められるこども家庭福祉に関する専門的な知識を習得する。
研究および論文作成を通して「子どもの最善の利益」を考え続ける力を身につける。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 文献・資料検索および収集の方法

3. 研究テーマ・方法の検討

4. 研究テーマ・方法の検討

5. 研究テーマ・方法の報告

6. 研究計画作成・報告

7. 文献調査・資料の収集等

8. 文献調査・資料の収集等

9. 文献調査・資料の収集等

10. 文献調査・資料の収集等

11. 文献調査・資料の収集等

12. 文献調査・資料の収集等

13. 中間報告会

14. 研究テーマおよび研究方法の再検討・修正・報告

15. 調査・資料の収集等

16. 調査・資料の収集等

特別研究 こどもと福祉

17. 調査・資料の収集等

18. 調査・資料の収集等

19. 調査・資料の収集等

20. 調査・資料の収集等

21. 調査結果および収集資料の整理・検討

22. 調査結果および収集資料の整理・検討

23. 論文作成

24. 論文作成

25. 論文作成

26. 論文作成

27. 論文作成

28. 特別研究グループ内報告会準備

29. 特別研究グループ内報告会

30. 印刷・製本

特別研究 こどもと福祉

準備学習（予習・復習等）

研究テーマに関する文献・資料を収集する。
収集した文献・資料を読み、まとめる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

個人あるいはグループの研究計画に基づいて研究を進めることを基本とするが、グループワークを通して意見交換や課題の検討などを行うことを通して研究を深める。
面接授業を基本とするが、一部遠隔授業を行う。

評価方法

中間報告（研究の進捗状況、文献・資料の収集等の状況）40%
研究成果(論文)60%

教科書

使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献

研究テーマに応じて紹介する。

特別研究 こどもと健康

科目のねらい

本科目は保育者として求められる専門的知識・技術を修得するための総合的教科であり（DP1）、子どもの最善の利益を考え続けることができるようになるための（DP5）専門科目である。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	4

授業の概要

「こどもの健康」とは何かを理解し、乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが健康で日々の生活を送れるよう、活動のあり方や方法を理論を踏まえて学ぶ。そのうえで、こどもにとって何が大切で、どのような保育者が求められるのかを熟考し、研究をまとめすすめる。主体性をもって研究ができる。

到達目標

現代社会におけるこどもたちの現状と課題を見つめ、こどもの健康について考え、研究テーマを設定し、研究論文にまとめて発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討
5. 論文とは（1）
6. 論文とは（2）
7. 研究テーマの決定・報告
8. 研究方法の検討
9. 論文構成の検討
10. 文献調査等
11. 文献調査等
12. 文献調査等
13. 中間報告会
14. 中間報告会
15. 振り返り、中間のまとめ
16. 夏休みの課題

特別研究 こどもと健康

17. 文献調査 1

18. 文献調査 2

19. 文献調査 3・素材整理・論文作成 1

20. 文献調査 4・素材整理・論文作成 2

21. 文献調査 5・素材整理・論文作成 3

22. 文献調査 6・素材整理・論文作成 4

23. 素材整理・論文作成 5

24. 素材整理・論文作成 6

25. 素材整理・論文作成 7

26. 最終報告会 1

27. 最終報告会 2

28. 校正・印刷製本 1

29. 校正・印刷製本 2

30. 特別研究発表会

特別研究 こどもと健康

準備学習（予習・復習等）

自分の研究内容について積極的に情報収集を行うこと。
図書館を利用し、文献を集めること。
参考文献をよく読む。
中間発表、最終発表では準備を進め発表できるようにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

選んだテーマに関する知識を深めるために文献検索できるよう図書館を利用する。
同じ特別研究を履修している友人のテーマについても考え、グループで討論を行う。
地域の子育て支援について特別研究グループで学習し、見学学習を行う

評価方法

研究に取り組む姿勢 50%（研究方法の報告書等の内容が適切である）
研究内容の成果 50%

教科書

特に指定しない

参考文献

- ・ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方 石井一成著 ナツメ社
- ・それぞれの研究テーマに沿って授業で紹介する。

特別研究 こどもと運動あそび

科目のねらい

本科目は、現代社会における子どもの発達における現状と課題を理解し（DP1）、子どもも健やかな発達のために必要な「運動遊び」や「表現遊び」を創造し、子どもの最善の利益について考え続ける力を身に付ける（DP5）ための科目である。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが心身ともに健康で日々の生活を送れるよう、「運動遊び」と「表現遊び」に視点を当て、活動のあり方や方法を理論を踏まえて実践し、実践力を身に付ける。運動遊びの「考案」「計画」「実践」「省察」を繰り返し行い、成果として、発達段階に沿った「運動遊びプログラム」を作成する

到達目標

- (1) 現代社会におけるこどもたちの現状と課題を理解する。
- (2) 幼稚園教育要領並びに保育所保育指針が謳っている領域「健康」と「表現」を踏まえて、こどもにとって望ましい発達の仕方について考え、理解する。
- (3) 幼児期の発達段階に沿った「運動遊びプログラム」を作成し、実践し、内容を発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 運動あそびの考案1
4. 運動遊びの実践1（模擬保育実践）
5. 運動遊びの振り返り1
6. 運動遊びの考案2
7. 運動遊びの実践2（模擬保育実践）
8. 運動遊びの振り返り2
9. 運動遊びの考案3
10. 運動遊びの実践3（模擬保育実践）
11. 運動遊びの振り返り3
12. 運動遊びの考案4
13. 運動遊びの実践4（模擬保育実践）
14. 運動遊びの振り返り4
15. 前期まとめ
16. 運動遊びの指導計画1

特別研究 こどもと運動あそび

17. 運動遊びの実践1（模擬保育実践）

18. 運動遊びの振り返り1

19. 運動遊びの指導計画2

20. 運動遊びの実践2（模擬保育実践）

21. 運動遊びの振り返り2

22. 運動遊びの指導計画3

23. 運動遊びの実践3（模擬保育実践）

24. 運動遊びの振り返り3

25. 運動遊びの指導計画

26. 運動遊びの実践研究1（幼児 3歳児 対象実践）

27. 運動遊びの実践研究2（幼児 4歳児 対象実践）

28. 運動遊びの実践研究3（幼児 5歳児 対象実践）

29. 運動遊びの実践研究振り返り

30. まとめ

特別研究 こどもと運動あそび

準備学習（予習・復習等）

- ・年間を通じて身近な保育施設や公園などでこどもの様子を観察し、年齢別にこどもの特徴をまとめる。
- ・こどもにとっての「運動」について、本やインターネットで調べる。
- ・考案した「運動遊び」を保育現場で実践する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・子どもの発達段階を神経系の発達の特徴から理解するために、子どもの遊ぶ姿のスライドや動画を活用する。
- ・運動遊びプログラムを作成し、プログラムに基づき、模擬保育形式で実践研究を行い、省察する場面を設定する。
- ・作成した運動プログラムで、幼児（3歳-5歳）に対して実践研究し、省察する場面を設定する。

評価方法

研究に取り組む姿勢（考案、計画、実践） 50%
研究の成果 50%

教科書

なし
各自研究に必要なものを用いる

参考文献

その都度、紹介する

特別研究 こどもの育ちと保育者

科目のねらい

子どもの最善の利益を考え続ける心構えを持ち、保育者の専門性である具体的な援助・指導について深く考えることができる

担当教員	奥田 美由紀
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

子どもが様々な体験を通して心が揺さぶられ、育っていく姿を見つめ、共に在る保育者の存在や思い、具体的ななかかわりについて、体験的あるいは文献などを用いて研究していく。

到達目標

生き生きとした子どもを育てるために、保育者はどうあるべきか、各自の研究テーマを元に具体的に考察し理解を深め、これからの自分の保育実践に意欲を高める。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 研究テーマの検討

3. 研究テーマの検討

4. 研究テーマの検討

5. 研究方法の検討

6. 研究方法の検討

7. 文献・調査・実践等

8. 文献・調査・実践等

9. 文献・調査・実践等

10. 文献・調査・実践等

11. 中間報告会（1回目）

12. 文献・調査・実践等

13. 文献・調査・実践等

14. 文献・調査・実践等

15. 文献・調査・実践等

16. 中間報告会（2回目）

特別研究 こどもの育ちと保育者

17. 文献・調査・実践等

18. 文献・調査・実践等

19. 文献・調査・実践等

20. 中間報告会（3回目）

21. 研究のまとめ

22. 研究のまとめ

23. 研究のまとめ

24. 研究のまとめ

25. 中間報告会（4回目）

26. 発表準備

27. 発表準備

28. 中間報告会（5回目）

29. 発表準備

30. 特別研究発表会

特別研究 こどもの育ちと保育者

準備学習（予習・復習等）

実習や親と子の広場で経験した事例や身近な話題に興味関心を持ち、研究したいテーマを見つける。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

実践事例をもとにした実践研究を主とする。

実践のフィールドとして、親と子の広場や保育施設を活用し、体験をもとにして、保育者の指導・援助と子どもの育ちについて、ディスカッションし考えを深める。

評価方法

研究に取り組む姿勢	50%
研究内容	50%

教科書

なし

必要に応じて、資料を配布する。

参考文献

その都度、授業で紹介する。

特別研究 こどもと遊び

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得し（DP1）、「子どもの最善の利益」を考え続けることができる態度を身につける（DP5）ための科目である。

担当教員	齋藤美智子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

授業の概要

- ・保育現場とかわりながら、事例をまとめ、子ども理解を深めていく。
- ・自作の手作りおもちゃを使いながら、子どもとの関わり方などを体験的に学び、考察する。

到達目標

手作りおもちゃや遊びの実践を通して、子ども理解を深めていく。

各回の内容

1. ガイダンス

2. 事例購読

3. 事例購読

4. 事例購読

5. 事例のカンファレンス

6. 事例のカンファレンス

7. 事例のカンファレンス

8. 研究計画

9. 研究目的

10. 研究方法

11. 教材作成

12. 教材作成

13. 教材作成

14. 実践

15. 実践

16. 実践

特別研究 こどもと遊び

17. 論文作成

18. 論文作成

19. 論文作成

20. 論文作成(中間報告)

21. 論文作成

22. 論文作成

23. 論文作成

24. 論文作成

25. 論文作成

26. 論文作成

27. 論文作成

28. まとめ

29. まとめ

30. まとめ

特別研究 こどもと遊び

準備学習（予習・復習等）

「親と子の広場」に参加したり保育現場を見学して記録し、考える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

遠隔授業（オンデマンド型）を行うことがある

プレゼンテーション
グループワーク

評価方法

論文作成 意欲・フィールドワークの様子等30% 本文70%

教科書

随時紹介する

参考文献

随時紹介する